

大構造改革の焦点はどこにあるか第2号(2001年08月22日)

第2回 アメリカ大恐慌より難しい日本のバブルの後始末

その1 日本の貯蓄文化とアメリカのマネー投資文化の間で暴発した日本の長期・資産・金融バブル

- アメリカ型証券・金融・資本市場システム「ザ・マーケット」のメカニズムの「頭脳」と「人工心臓機能」のメカニズムが分からないまま「手」と「足」だけの機能を真似て市場経済無政府状態を招いてしまった日本 -

<目次>

1. 社会構造の軸組み転換空白期に暴発した日本固有の文化が生んだ貯蓄型長期資産信用システム

2. 学んでいなかったアメリカ証券・金融・資本市場システムの持つ基本原理
- 物・金一体ヨコに広がる投資契約で作り上げた集団人工心臓機能のはたらき -

3. アメリカ型「ザ・マーケット」の掟を知らないで市場経済に参入した日本の悲劇
- 資産、コスト嵩上げとノーリスクブローカービジネスの自己増殖とサラ金依存症だけ残った日本 -

4. 国家胴元まで喰い潰して自己増殖したブローカー虚業ビジネスの繁栄とオーバースペキュレーションパワーの破壊力 - 国まで吹きとばした「制御棒 - regulation」なき金融・原発・マーケットの暴発 -

5. 閉ざされた仲間うちブローカー社会システムの評価と世界のディーラー社会システムの評価の喰い違いが生む日本の不良債権・公的債務の発生・・・売りスペキュレーションと血と汗で迫ってくるデフレ経済の襲来

この数十年、日本は財政・金融を主軸に景気対策などの経済対応策を繰り返しながら経済破綻から逃れようと努力してきた。

しかし、この蟻地獄のようなデフレスパイラルから逃れるために目先の「財政」「税制」

「金融」「市場」システムの技葉の部分を変えようとすればするほど市場経済強者の餌食とされ深みにはまりこんでしまうのは何故なのであろうか。

それは付加価値作りを求める異質者を束ねて新しいエネルギーを生み出す人工心臓機能的メカニズムを備えたアメリカ型の証券・金融・資本市場システム「ザ・マーケット」の持つ破壊力の恐ろしさを理解しないでもがいているからなのである。

1. 社会構造の軸組み転換空白期に暴発した日本固有の文化が生んだ貯蓄型長期資産信用システム

日本のバブル発生原因について多くの論評や反省が行われている。

しかし、つきつめて見ると第二次世界大戦にまきこまれた原因も今日の金融バブルの発生原因も、また現在、我々が悩んでいる蟻地獄のような手づまり状態のすべてに通じている原因がある。それは、数千年の伝統から生まれている守られた固有領土の中で同質の単一民族が育ててきた長期、平和、集団、勤勉・・・長寿・・・のための先憂後楽、蓄え先行という閉鎖型のインフラ社会構造である。特に第二次世界大戦後、安全保障約によって生命が守られてきた民族にとって外敵に備えるよりも自らの平和、長寿生活に備えた内向きの勤儉貯蓄に励むことが美德とされてきたことである。

この発想に基いて蓄えられたお金は中央に集められ財政・金融システムを主軸とした間接金融システムによって効率的に産業資金として供給され高度成長を実現するエネルギー源となった。

しかし、問題は高度成長が鈍化し供給資金に見合った新しい付加価値が得られなくなったあとも、この勤儉・貯蓄をベースとした間接金融型の社会システムだけは根強く温存され続けてきたのである。

そして、アメリカ型のマーケットを活用した直接金融システムが次第に浸透する時代を迎えても、日本ではなお、従来の間接金融システム型の伝統的な社会構造システムの中で付加価値を生まない名目上の金融資産だけが自己増殖するインフラシステムが残されてきたのである。

(メカニズム転換期に皆で供給した過剰資金)

それは銀行を中心とする民間金融センターの部分も財投を中心とする公的金融センターも直接金融部門も同じように実体経済の成長能力をはるかにこえた資金供給と投資が行われたことにある。

問題はこの過剰信用膨張を招いた原因が存来型の間接金融システムをコントロールする人為的な政策の誤りとか規律の弛緩だけにあったのではないのである。

それは、国際化の進展とともに我が国に導入されたアメリカ型の証券、金融、資本市場システム「ザ・マーケット」への結合に必要な国家としての基本的な金融システムの軸組

みの転換を怠ってきたことが大きな原因となっているのである。

当時の日本では第二次大戦後、占領政策の一環として日本に導入された民主主義、安保税体制と同じように、このアメリカ型の直接金融システムは与えられた新しいシステムとして形だけ導入はされた。

しかし基本的な軸組みの転換に必要な市場規制法、税制、会計制度など社会インフラ改革の必要性は殆ど理解されることなく存来型の間接金融システム型のインフラシステムのまま受け入れたのである。

こうして基本メカニズムの転換期にあって間接金融型の「人」による規律維持システムも直接金融型の「マーケットメカニズム」による規律維持システムもともに機能しない不完全な金融・証券・資本市場メカニズムのままで日本固有の文化とする「長期貯蓄資金」が市場制御チェックを受けることなく、そのままスペキュレーションエネルギーとして「ザ・マーケット」に直結された結果、史上最大の長期資産信用の大暴発を招く結果となってしまったのである。

(国家胴元が強制決済責任を忘れた日本の悲劇)

問題は、財政、金融、企業、投資家、仲介人・・・すべての市場経済参画者が一体となって市場経済取引の掟に従って完全決済をすることによって、アメリカ型「ザ・マーケット」の秩序が保たれていることが日本では理解されていなかったことにある。

それはアメリカが「ザ・マーケット」の暴発による損失の決済尻を納税者に転嫁しないようにするため、大恐慌の教訓をもとに市場経済参画者全員の合意で厳しい市場経済取引の掟を創り上げ実現させる強制力を備える知恵を持っていることである。

悲しいことに日本では無限に創造できると錯覚をして人為的に膨らませた土地・株式などの長期資産をあてに国全体の経済活動取引空間を拡げてしまったのである。

しかし、こうして膨らんだ水割り酒金融システムはやがて収益力の不足と担保価値の目減りによって決済不能状態に陥り、その不足金は次世代の納税者が負担するという最悪の状態を招くことになったのである。

それは国家自らが「ザ・マーケット」の最終管理責任者としてマーケットの本質を見極め自ら掟を創り上げる責任があることを知らないまま、自ら膨らませた金融資産をベースに創り上げられた歪められた経済指標だけを頼りに実効の上がらない景気対策を繰り返してきたことにある。

そして自らがマーケットの利点に溺れ、その副作用の恐ろしさを知らなかった国に悲劇が訪れようとしているのである。

2 . 学んでいなかったアメリカ証券・金融・資本市場システムの持つ基本原理

- 物・金一体ヨコに拡がる投資契約で作り上げた集団人工心臓機能のはたらき -

大恐慌という高い授業料を払ってアメリカが作り上げた証券・金融・資本市場システムの基本原理とは・・・異質の世界に育った投資家・企業家・仲介技術者などすべての市場経済参画者が物・金一体となって新しい未知の分野に進出し、付加価値を求めするために投資契約をベースに創り上げた人工心臓機能を利用した投資循環メカニズム・・・と言える。

それは

- ・ 国民経済主体の国が胴元となって市場経済国家としての公益理念を確立しマーケットの管理責任を持つこと
- ・ 投資家、企業家、仲介技術者など全市場経済参画者を結ぶ「投資契約」を基本とする付加価値創造、分配、循環、決済機能を持つこと
- ・ リスクキャピタル（燃料）とエンジンをプライスメカニズムでコントロールする「マーケット機能」が必要であること
- ・ 市場の暴発によって国民経済システムが破壊されることを防ぐために、このスペキュレーションを燃料とする原発的威力を持つマーケットを制御し完全決済によって本物の付加価値出力を得るための参加者全員で創り上げた厳しい「掟・・・regulation」が作れるか、守れるかが勝負どころとなっていること

このメカニズムは「人」を中心に創り上げられてきたタテ、コンセンサス、循環型のヨーロッパ、日本の間接金融システムとは基本的に異っている。

それは特定の人（リーダー）の英知に頼って経済のシステムをコントロールするメカニズムではなく、異質者間の契約によって作り上げた「人工心臓」をもとにヨコに活動領域を拡げるメカニズムである分だけそのメカニズムを守るレギュレーションシステムの優劣こそ国家の存亡にかかる基本戦略として取り扱われているのである。

残念ながら守られた領域の中で同質者の持つそれぞれの天然心臓を集めて活動し、同質者間のコンセンサスによって秩序を保ってきた日本には、このアメリカ型の異質の人達がそれぞれの血液を持ち寄って品質をチェックし心拍サイクルを整え、強制的な鼓動を与えて活動力を生み出す「異質者集団人工心臓機能」も、又この人工心臓に「指令を与える頭脳の働き」を理解することは難しいのである。

この人工心臓機能を働かせ投資活動を広げる機能こそがアメリカ型の証券・金融・資本市場・・・「ザ・マーケット」の役割りなのである。（アメリカ証券、金融、資本市場メカニズム再生の知恵・・・次回以降説明の予定）

3．アメリカ型「ザ・マーケット」の掟を知らないで市場経済に参入した日本の悲劇

- 資産、コスト嵩上げとノーリスクブローカービジネスの自己増殖とサラ金依存症だけ残った日本 -

日本が数千年にわたる歴史の中から伝統的に伝えてきた勤儉貯蓄をベースにした社会に、このアメリカ型の証券市場システムを導入することは、まさに天動説から地動説に移行するほど文化、慣行、社会制度の大転換を必要とするのである。

明治開国以来、外国文化を器用に受けとめ吸収消化し経済大国と言われるようになった日本においても、このアメリカ型「ザ・マーケット」の本質を理解し吸収することは容易なことではなかった。

(ザ・マーケットの手足の部分だけ真似た日本)

そして日本では、この「ザ・マーケット」の「生命」である「人工心臓」と「頭脳」のはたらきの部分を十分に解明することができないまま、技葉末節の手足の流通部分などメカニズムの一部の吸収だけにとどまっていたのである。

問題は肝心の「ザ・マーケット」の「頭」と「心臓部分」のメカニズム…基本的な投資循環機能とかりリスク付加価値を求めるために必要な技…ベンチャー、インベストメントバンク、アナリスト、ディーラー、ローヤー等の技術力とかメカニズムの制御に必要なマネージメント技法・レギュレーションの吸収を怠ってきたことにある。

つまり日本は、アメリカ型の物・金一体になって付加価値を求めるために創り上げられている「ザ・マーケット」の本質を理解することなく、蓄えた富(たねもみ)をまき、勤勉に働いて田畑を手入れしたあとは天の恵みによる豊作を期待し、その収穫を交換する村の朝市型の「市場」を持つだけで蓄積資産の増加を願ってきたのである。

そして日本は、この「付加価値」を創り上げ評価するためにある「ザ・マーケット」の人工心臓血液口化機能を欠いたまま、作られた需給だけで出来た価格をベースに「富」の価値の計算を行って金融資産大国と自慢してしまったのである。

日本でも「物の経済」は「ザ・マーケット」の掟に従って品質をチェックし、付加価値を求め自己責任で完全決済し経済大国を作り上げ大成功を納めた。

(財産目録を膨らませただけの水割り酒金融資産)

しかし、日本のお金の経済システムは、物・金一体となって付加価値製造責任を持つ考え方も、厳しい決済システムで裏打ちされたディーラー、インベスメントバンクの機能ももっていないのである。

そして自らの信用創出力によって嵩上げした仲間うちの資産評価手法を使って量だけの金融資産大国を作り上げ見せかけの公益性と投資効率でカムフラージュした無責任、ノーリスク取次業務を肥大させてしまったのである。

考えてみると、日本では村の財産目録をブローカーの手によって作られた仲間うちの手法で評価をする形だけの資産評価システムだけはあって、その評価システムの妥当性、客観性をチェックする機能も自ら品質・価格判断責任を持つディーラー機能を持っていなかったのである。

さらに問題なのは国民経済の最終経済尻をチェックする国の財政ディーラーシステムが機能しないまま莫大な公的債務が増え続けてきたことである。

こうして、水割り酒経済の進行とともに日本の資産収益力はあつと言う間に市場先進国の1/3程度にまで落ちこむことになってしまったのである。

4. 国家胴元まで喰い潰して自己増殖したブローカー虚業ビジネスの繁栄とオーバースペキュレーションパワーの破壊力 - 国まで吹きとばした「制御棒 - regulation」なき金融・原発・マーケットの暴発 -

(買いオペレーション暴発の原因)

日本では未だに銀行が株式を保有するとその価格変動リスクによって銀行自らが危険に晒される危険があるから株式を保有すべきではないとする議論だけが行われている。

しかし、問題は銀行自らがリスクに晒されることだけにあるのではない。

アメリカでは仮需給オペレーションという劇薬を使ってリスクの多い付加価値を引き出そうとする「ザ・マーケット」システムから生じる副作用によって金融システムだけではなく、国家胴元そのものが破壊されることを学んで自らを律する厳しい regulation を創り上げたのである。

それは実需経済の容量を超えたオーバースペキュレーションによってマーケットの価格形成機能が歪められ、国家の経済・社会システム全体が破壊された大恐慌のような惨事を発生させないための工夫である。そして銀行の株式保有禁止、担保金融などの信用規制・市場規制・SEC・強制決済執行機能という制御装置が作られたのである。

それは銀行のための規制ではない。国家の安全保障のために行われている規則なのである。

日本ではこの付加価値作りに必要な量をこえた過剰な仮需要の供給によって限りない欲望だけが先行し国民経済全体が歪められる市場経済システムの欠陥を学んでいなかったのである。

そして土地、株式などの長期信用部門に限りなく資金を供給し、長期資産信用全体が異常膨張し欲望空間が肥大し、国家胴元が危険に晒される陥穽にはまってしまったのである。

具体的には

1. 銀行による土地、株式の保有、担保金融取引が野放しにされ過剰な信用供給が行われたこと。
2. 本来、付加価値の品質で競うべき証券市場における取引価格が過剰信用によって人為的に作られた需給のブレによって金融資産の価格が歪められ
3. 実体経済の内容を超えた分配と浪費が行われてしまったことである。

(頭脳と心臓コントロールシステムの欠落)

こうした歪みの発生を防ぐために必要な市場支配行為、相場操縦行為、詐取的行為の排除とか、SEC 機能、民事救済システムなどマーケットメカニズムの頭脳と心臓部分を律する「証券市場規制システム」が欠落したまま市場参加強者による資産・コスト価格の嵩上げが放置され、とうとう国民経済全体の規律までもが緩んでしまったのである。

日本にも形だけの「信用規制」「市場規制」のルールはある。しかしそれは「ザ・マーケット」の「頭脳」と「人工心臓」機能を制御するための基本ルールではなく技葉末節のブローカービジネスの細目を律するためにだけに終わっていることが分っていないところに日本の天動説社会システムの持つ基本的欠陥があるのである。

そして、こうした錯覚の中で肝心の国民経済の「頭脳」と「心臓部門」を律する「マーケットの掟」の必要性も機能もよく分らないままメカニズムの欠陥が放置された結果、市場経済取引を悪用した非効率ビジネスが増え国民経済出力はどんどん低下することになっているのである。

こうして日本では、同僚者の善意と良心と他国の公正と信義に信頼して伝統的に創り上げられた天然心臓メカニズムを市場であると考えてアメリカ型の人工心臓機能の持つ推進機能の部分だけを真似て形だけの出力を増やしてきた。

しかし、日々メカニズムをチェックしより高い付加価値を創り出すために必要な人工心臓の備えている血液の品質をチェックする制御機能を持っていないのである。

そして手足のブローカービジネス相互間でつけた仲間うち価格で金融資産の量を表示し、あたかも本物の付加価値を生み出す力を持った「富」の原泉であるかのように錯覚して国民経済計算を行ない節度なき無限欲望空間を膨張させてしまったのである。

(ノーリスク・ブローカー虚業ビジネスの自己増殖)

こうした中で日本では、貯蓄指向文化とともに蓄積された水割り酒金融資産をあてにして細分化された安全空間の中で手間賃だけは先取りはするが、自らリスクもとらず付加価値も生まないノーリスク・ハイリターン型のブローカービジネスだけが増えてしまったのである。

1 . 政治家は、みせかけの公益と投資の名で付加価値を生まない目先の失業対策的事業に国費を投入し

2 . 役所は、技葉末節ルールをさらに細かくして毛細管経済のを支配空間を膨らませ

3 . 銀行は付加価値を生むあてもないまま預金集めと担保主義に守られた貸出を膨らませ

4 . 証券会社は付加価値の裏付けのない株式、金融商品の取次・販売量を増やし

5 . マスコミは視聴率と風見鶏にあわせて社会部的表面情報をばらまき

6 . 学問、教育の世界は役に立たないバラバラの技葉末節知識を切り売りする

だけで誰も自らリスクをとって外の世界に踏みこんで本物の付加価値を求めることなく手間賃だけ先取りできるノーリスクの取次ビジネスに専念する虚業が増殖したのである。

こうして日本の本丸では、新しい情報社会の中で、国全体としてどれだけ新しい付加価値を生み出すことが出来るかについて誰も考えることなく仲間うちの取次ビジネス空間の量だけ拡げようとしてきたのである。

日本でも自動車・家電業界など国際的活動を行っている企業は自ら厳しい掟を持ってこの新しい付加価値競争に参画し悪戦苦闘しながらも大きな成果をあげ国家財政を支えてきた。

しかし、こうした付加価値創造リスクに挑戦している部門とは対象的に本丸の安全地帯で過してきた財政、金融、流通、国内産業、報道、学術などの部門ではリスクを伴う新しい付加価値創造競争への参画を避け守られた安全な仲間内の相互取次競争空間へ逃避しお互いの無限競争欲望を満たそうとしてきたのである。

なかでも最も大きな問題は、政治、財政といった国民経済の最終決済責任を持つべき国家の頭脳責任者集団が自らメカニズムの欠陥を明らかにすることなく、そのマーケットメカニズムの歪みによって発生している巨額の債務を形だけの民主主義多数決ルールに従って次世代にとばすサラ金経済を容認してきたことにある。

5 . 閉ざされた仲間うちブローカー社会システムの評価と世界のディーラー社会システムの評価の喰い違いが生む日本の不良債権・公的債務の発生・・・売りスペキュレーションと血と汗で迫ってくるデフレ経済の襲来

(経済計算が分からなくなった国)

日本は何時の間にかこの貯蓄指向文化と投資付加価値追究文明という基本軸の異なった資本主義経済システムの間挟みこまれて経済計算が合わなくなり身動き出来ないほどの大苦境に立たされることになった。

日本サイドで計算した千数百兆にのぼるといわれている日本の金融資産を世界基準で評価してみると驚くほど巨額の喰い違いがあるのである。仲間うちブローカー社会のあいまいな評価と付加価値・収益力で見た評価の違いである。

この喰い違いが公的債務と不良債権を激増させサラ金経済を加速させているだけでなく、天に委ねたあいまいなスタンダードしか持っていない国の混乱に乗じてゆきすぎたスペキュレーションと血と汗で競う実物デフレ経済が襲ってきているのである。

(市場経済無政府国家を攪乱する売スペキュレーションの活躍)

日本の貯蓄指向文化と金融のオーバースペキュレーションエネルギーによって押しあげられた巨大な金融バブル空間は、世界最大の餌場として世界中のはげ鷹に提供されることになった。

そして買い・ + ・貯蓄・ブローカービジネスしか知らない農耕民族の蓄えた無防備な富を狙って、売り、決済、殺しを武器として腕を磨いてきた世界中のはげ鷹ディーラー集

団が売り спеキュレーション技法を使って日本の土地、長期資産信用を標的にして襲いかかってきているのである。

日本には買い спеキュレーションのゆきすぎを律するレギュレーションが働いてこなかっただけでなく、この売りのオーバースペキュレーションを律するレギュレーションも、マーケット全体をコントロールする為に必要な頭脳と心臓を律する基本戦略メカニズムもルールもない市場経済無政府状態にあるのである。

こうした中で、いよいよ спеキュレーションエネルギーの生き血を吸って育ってきた世界中のはげ鷹集団によって日本経済の解体・再生作業が行われようとしているのである。

(頭と心臓の国際化)

第二次大戦後50年間、日本は鎖国型の金融・市場システムを守りながら自らの手足だけを国際化に順応させ、それなりにつじつまを合わせてきた。

しかし、いよいよ金融システムがゆきづまり国民経済全体の破局が明らかになるにつれ自らの「頭脳」と「心臓」のつくりを世界システムと合わせなければならない時を迎えた。

それは自らリスクをとり血を流し汗を流してこそ新しい付加価値が得られるというあたりまえの原則が忘れられ、守られた平和空間の中で自ら願っているだけで安全、安定社会と無限長寿という願いが叶られると思って都合のよい計算をしてきた長い夢から醒める時がきているのである。

自らリスクをとってエネルギーを生み出す努力と、自らを律する力を持たない者は生きてゆくことができないことを厳しい現実が教えてくれているのである。